

はじめに



2007年5月より、J-WinのNPO法人第1期の活動が開始されました。  
7月の合宿を経て、7つの分科会が発足。  
その中の1つが、私たち「企業文化変革 男性の意識研究分科会」です。  
2007年9月より、下記のミッションを掲げて、分科会活動を開始しました。

## J-Win企業において、多様な働き方を認め合う企業文化を創る ～心の“カベ”を取り払え!～

さて、男性の意識を研究するといっても、私たちは女性です。まずは既存概念を捨てて、〈男性と女性の意識はどう違うのか〉を調査するところから始めました。調査方法は、おもに座談会&インタビューです。私たちの分科会では、企業トップの経営層ではなく、企業で女性が働く上で影響力が大きい中間管理職の方々、普段あまりダイバーシティについて身近に考える機会の少ない方々の意識を知りたいと考えました。

そこで企画したのが、2回のセミナーです。第1回目は「男性脳と女性脳の違い」、第2回目は「男性・女性の性差を越えた個の違い」をテーマに、それぞれ外部講師の方を招いて行いました。各セミナーには、わが分科会のメンバーが1人以上の自社の男性社員を同行し、男女ほぼ同数で同じセミナーを受講しました。その後、男性の本音を聞かせていただくことと、セミナー内容を受けたアンケート&座談会を行いました。

アンケートの結果からは、男性と女性の意識の間に、私たちが当初想定したような顕著な違いは見られませんでした。しかし、座談会でのトーク内容をレビューしてみると、女性活用やダイバーシティについて、頭ではわかっているが、実際にはいろいろ悩んでいる男性管理職の姿が浮かび上がってきました。そこには、男女間の誤解、すれ違い、思い込みなどがあることも見えてきたのです。一方、各企業で働く方々へのインタビューを通じて、それらの悩みに対する回答をすでにお持ちの方々との出会いもありました。そこで、こうした男性諸氏の生の声をもとに、悩んでいらっしゃる方々に解決のヒントを提供するQ&A集を作成しようということになりました。

また、こういう働き方もあるのだという新たな気づきを与えてくださった男性の方々との出会いもありました。そこでわかったのは、皆さん、最初からダイバーシティについて理解があったわけではないこと、それぞれダイバーシティについての気づきが促される「きっかけ」があったこと、そして、そのきっかけを作ったのは、たいていの場合、彼らの身近にいる働く女性たちだったということでした。そんな彼らの生の声も紹介しています。

この冊子は、私たちの約1年半にわたる分科会活動の集大成です。男性・女性の違いは確かにあるけれども、むしろ大きいのは個人の違いであること、一人ひとりが自立し個を確立したところに、企業にとっても個人にとっても望ましいダイバーシティな社会が実現するのではないかということなどが、大きな学びでした。この冊子が、読者の皆様にとっても、ダイバーシティを考える「きっかけ」となりましたら幸いです。